

「武蔵野徳洲苑・武蔵野徳洲会病院 忘年会」 平成27年12月4日(金)



武蔵野徳洲苑と武蔵野徳洲会病院職員による忘年会が行われました。お互いの親睦を深めるとともに、より良い連携を目指し、老健・病院の部署の垣根を越えて頑張りたいと思います。

円居(まどい)



介護老人保健施設武蔵野徳洲苑 広報誌のタイトルにある「円居(まどい)」とは、団欒の意。利用者様・ご家族様が集まり、楽しく語り合える施設を目指して名付けました。

「サロンに集まる時などは円居が大抵三つ位に分れて出来た/或る女 有島武郎」



武蔵野徳洲苑 施設長 栗田 明

施設長ご挨拶



新年おめでとうございます。今年で当施設は西東京市にオープンして約3年半、隣接する武蔵野徳洲会病院は約6カ月経ち診療体制も整ってまいりました。我々は地域の人々に一層信頼されるように努めなければなりません。年頭にあたり一言今年の抱負を述べさせていただきます。

我が国には介護保険が適応される高齢者施設は老健と特養があります。特養は居住が第一の目標となるので“生活の場”が主となる施設であるので医療職の常駐は必ずしも必要ではありませんが、老健は“身体をよくする”ことが第一の目標であり介護リハビリなどが主となる施設であるので医療職の常駐が求められます。老健に常駐する医療職員は入所者の健康状態を常にチェックすることが重要で、そのためには罹患疾患を正確に把握するとともに疾患の急変に備える必要があります。当施設は武蔵野徳洲会病院に隣接している点安心です。病院がオープンされるまでは入院先の病院を探すのに大変苦労しました。入所者の平均年齢は約88歳と超後期高齢者で、心血管器系の疾患を有する入所者が多く、これらの疾患はしばしば急変するので、救急車が到着したのに搬送先の病院が決まらないジレンマをしばしば経験しました。昨年の6月からは隣に新規オープンした病院のお陰で、入所者には安心した入所生活を提供できると思います。

つぎに入所者が安心できる介護生活を送るには介護する職員は入所者の健康状態を常にチェックすることが求められます。そのためには日頃から入所者のバイタル(血圧、体重、心拍数、発熱、摂食量、排泄など)をチェックするとともに、高齢者に多い疾患についての知識を育むことです。すなわち高齢者に多い中枢系、心疾患、高血圧、不整脈などの循環器系の疾患や肺炎などの呼吸疾患、消化器疾患などのほか転倒、転落事故などに注意しながら介護ケアをおこなうとともに介護ケアの方法なども年々進歩しているので、研究会や学会などに出席して意見を交換し職員が切磋琢磨するように心掛けています。我々は当施設で経験した入所者の事例などについて昨年の老健大会で発表しました。今年はさらにデータを追加して各種の学会や研究会に発表する予定です。

デイケア「クリスマス会」 平成27年12月25日(金)



デイケアでは職員による出しものが大盛況となりました。

←網タイツで自慢の美脚!?!を披露する理学療法士O野寺さん。



ご面会時のお願い

当苑ではインフルエンザやノロウイルスなど感染症対策のため、来苑時には手指消毒、うがい、マスクの着用をお願いしております。また、ご面会の際にご利用者様へ刺身など「生もの」の差し入れなどはご遠慮くださいますようお願い申し上げます。



ご協力をお願いします



武蔵野徳洲苑ツートップへのサプライズ企画

「武蔵野徳洲苑顧問 石川一郎誕生会」



「生誕50年 事務長 堀野幸一誕生会」 平成27年9月22日(火)



第6号 制作・編集・印刷・発送 佐竹 弘太郎/武蔵野徳洲苑広報委員会

〒188-0013 東京都西東京市向台町3丁目5番57号
☎042-465-0800 fax042-465-0812
医療法人沖繩徳洲会
介護老人保健施設武蔵野徳洲苑

行事紹介 「クリスマス会」 平成27年12月20日(日)



2015年クリスマス会には、ウインズパストラレー(代表 西原みどりさん)の皆様30名による吹奏楽が演奏されました。各フロアのご利用者様、ご家族様がお集まりになり盛大なクリスマス会となりました。



行事紹介 「アスク田無保育園 ソーラン節を披露」 平成27年10月12日(月)



アスク田無保育園の可愛い園児たちが、ご利用者様に会いに来てくれました。一生懸命練習した「ソーラン節」を披露し、ご利用者様も手拍子でリズムをとるなど園児を応援していました。ほのぼのとした時間をすごしました(^o^)

「幼稚園児さんが施設を訪問」 平成27年11月20日(金)



「5歳園児たちによるメロディアン演奏」 平成27年12月16日(水)



「上北台小学校の皆さんが施設を訪問」 平成27年11月12日(木)



「田無第一中学校の皆さんが施設を訪問」 平成27年12月16日(水)



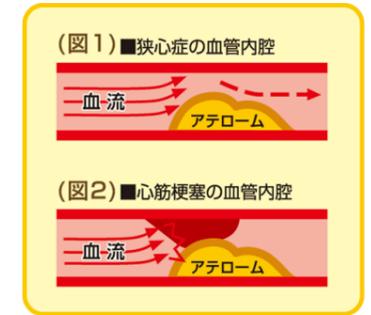
デイケア行事 「寒水仙の種まき」 平成27年12月4日(金)



「感染症と心臓病」 施設長 栗田 明

冬場はインフルエンザが流行する季節です。最近の研究によれば感染症と心疾患などの循環器疾患との関係が疫学的にも報告されています。動脈は体のすみずみまで栄養や酸素を運ぶ管で弾力性に富んでいますが、加齢とともに血管に老化現象が起きていろいろな物質が沈着し血管壁が狭くなり血液の流れが滞るようになります。心臓や脳などの臓器は自律神経の影響を受けやすく寒冷にさらされると動脈は収縮して身体から熱の喪失を防ぐように働きます。その結果、血圧は通常より上昇しもし動脈硬化などの病変があると血流障害を起こして心筋梗塞や脳梗塞を発症しやすくなります。疫学的な調査によれば11月から3月までの冬季には心筋梗塞は約17%、脳血管障害は約40%も発症率が高くなると報告されています。心筋梗塞は心臓を養っている冠状動脈にできた動脈硬化巣のプラークが破碎しその血栓が心臓を養っている冠状動脈を閉塞するために心筋が壊死に陥る病態です。激しい胸痛、冷や汗、嘔吐などの症状が10~15分位続きます。また心筋の血流障害のため致命的な不整脈を発症する場合があります。もし不整脈が発症した場合はAEDなどを用いないと心臓性突然死になることもあります。心臓病の予防には正しい生活習慣が基本です。すなわち過度の高脂肪食、塩分のとり過ぎを避け、肥満にならないように運動を毎日20~30分位続けることです。運動の程度は有酸素運動が基本で心拍数毎分100~110位が目安です。当然のことですができるだけストレスをさけ禁煙を実行することです。

もし疑問などありましたらお気軽に事務を通じてお問い合わせ下さい。可能な限りお応えします。



栗田施設長、日本介護福祉学会誌へ研究論文を投稿。
タイトル「介護老人保健施設における循環器疾患の介護ケアの重要性」